

★紹介コーナー No. 4

「ドラマチックな郷土史探究」 鶴見歴史の会

昭和56年(1981)に設立され、今年で36年目を迎えた「鶴見歴史の会」を訪ねました。



鶴見歴史の会の活動拠点である鶴見神社

お話をお聞きしたのは金子元重会長、箸秀子副会長、東海林瑛子事務局長と会員の齋藤美枝さん、皆さん鶴見の有名人です。会長は鶴見神社の宮司さん、また、齋藤さんは「鶴見花月園秘話」や「鶴見總持寺物語」など鶴見の郷土史研究に欠かせない本を書かれた方です。

これまでの会の活動はびっくりするほど中身が濃いものでした。その一端をご紹介しますと思います。

(聞き手:佐野純一)

会設立と「鶴見田祭り」復活への活動

鶴見の郷土史探求をめざして歴史同好者が集まり、鶴見歴史の会は昭和56年2月9日に発足したのですが、スタートと同時に大変な事業に取り組むこととなります。それは100年以上前、明治の始めに途絶えた「田祭り」を復活させようというものでした。



平成 29 (2017) 年の田祭りのポスター

現在6代目会長を務められている金子宮司さんは、若い時に近所の古老から、「昔、この神社にはネーレン祭りがあった」という話を聞いて、いつか再興したいと思い、旧家の蔵に眠っている古文書などを探したのですが、明治44年(1911)の鶴見大火ですべて焼失してしまい、資料を手に入れることができませんでした。鶴見神社の先代宮司を勤めた黒川荘三翁が書き残した『千草』に田祭りのことも書かれているという情報をもとに、九州や大阪に住む黒川荘三翁の子孫の方々を探し出し、問い合わせをすると、なんと高槻市の黒川家の物置の奥の茶箱の中に『千草』や鶴見関係の資料が入っていたのです。何度か大阪まで足を運び、その資料を譲り受けることができたのでした。

ちょうどその頃、鶴見歴史の会の設立総会が鶴見神社で開かれたので、「田祭り」復活の協力をお願いし、

鶴見歴史の会も会の目標のひとつに掲げることになりました。当時の会員には歴史研究の専門家なども多く、精力的な調査・研究活動が始まりました。資料の分析、古老への聞き取り、各地に残る類似の田祭りの研究など、その活動は広範、多岐にわたり、延べ2000人の

人々がこの事業に関わりました。

6年以上の歳月を費やし、ついに昭和62年(1987)4月5日に100年以上の時を超えて、鶴見田祭りは再開されたのです。この会の活動なしには、鶴見の田祭りが再び日の目を見ることはなかったことでしょう。それからちょうど30年目となる今年も、4月29日(昭和の日)に鶴見神社境内で鶴見区制90周年を祝しながら、再興30周年の田祭りが開催されます。

## 田祭りはなぜ途絶えた？

鶴見の田祭りは古く(鎌倉時代からと伝えられている)杉山大明神(現、鶴見神社)で行われていた豊作を願う祭りであり、伝承文化、民俗芸能です。鋤入れから苗代つくりや田植え、刈り入れなどの農作業の様子を「神寿歌」にあわせて演じていきます。

この祭りがなぜ途絶えたかという、その理由がまた横浜らしいのです。祭りの中に、男女の交合を示す、今で言えば、エロイ場面が演じられます。こうした場面は日本では古くから、豊穡、子孫繁栄を願うことから、全国各地で見られるものですが、横浜が開港し東京が首都になると、東海道を往来する外国人の目に触れるのは好ましくないと、明治政府から廃止させられたと伝えられています。

「田祭り」は「田遊び」ともいいますが、この「遊び」は神楽(かぐら)のことで、「神遊び」ともいわれ、元来、田の神の霊を田に落ち着かせて十分な働きをするように祈ることなのです。大昔から米を食し、米をあがめる日本では、祭りというものの始まりは、米の豊作を願う“米の祭り”と考えられているのです。そんな日本人のルーツともいべき祭りを、廃止させたのなら、時の政府は欧米列強に気を使い、日本文化を全く軽視するほど余裕がなかったのかもしれませんが。

## 現在も続く熱い活動

鶴見歴史の会の会員数は現在約70名、その活動は多岐にわたり、「郷土史展」や「歴史講座」の開催、「各種書籍発行」「古文書研究」など、どれも内容が充実した本格的なものが実施されています。なかでも、機関紙「郷土つるみ」は会の発足時の創刊号から3月発行の76号まで鶴見の歴史や文化を記録に残してきた素晴らしい小冊子で、その数を見ると、歴史の重みに圧倒されます。

## 鶴見田祭りの写真

「神寿歌」に合わせて米作りの一連の作業を演じる



「福の種まき」へ大明神(だいましょうじん)の 御神田(ごしゅんでん)に 御神田(ごしゅんでん)に 徳万石(とくまんごく) 福万石(ふくまんごく) ざうぶざうぶと 蒔(まこ)うよとや へ此程(このほど)に 此程(このほど)に 福(ふく)の種(たね)を蒔(まこ)うよ



「早乙女の田植え」早乙女は、扇子の笠を被り早苗を植える



「豊年祝い」神馬と豊年羊、牛役の男児たちが登場して豊年を祝う



「道化の踊り」豊作と子孫繁栄を願って於鶴と亀像が歌い踊る へ太鼓(たいこ)はどうと鳴(なる) 鉦(かね)はぐわんと鳴(なる) 心(こころ)はそつくらめく 開(つび)はひつくらめく

また、平成23年には「鶴見七福神めぐり」を誕生させるなど、鶴見区の魅力向上、地域文化の発展にも大いに貢献しています。

## これからの課題

歴史のある会だけに、ある意味、課題は多いそうです。まずは、これまでに集められた膨大で貴重な資料をどうやって保存し伝えていくかということ。現在、2か所に分けて保管中ですが、これからも増えていく資料を今後どうしたらよいか悩みのようです。人口70万人を抱えるこの鶴見区に郷土資料館ができれば、それは一挙に解決することなのですが、残念ながら今のところその目途は立っていないそうです。郷土の宝に、行政も少し手を差し伸べてほしいものです。また、会員の高齢化が進み、この会を今後さらに発展させていくには、若い世代の参加と協力が必要とのことでした。新会員を募集中で、鶴見区以外のかたも大歓迎だそうです。

聞き手より: 鶴見出身なので、前から時々「鶴見歴史の会」のホームページなどで鶴見の歴史を勉強させていただいていました。そのときの正直な印象は、スティックに研究されているけど、ちょっと地味すぎなんじゃない、でした。ところが皆さんにお話を伺ったとたんにこのイメージは吹き飛びました。会の発足から現在まで、会員の皆さんが大変情熱的、精力的に活動されていることが伝わってきて、それは実にドラマチックと言ってもよいほどでした。これからも変わらず、鶴見の郷土史探求を続け、次世代に繋げていかれることを切に願っています。

関連情報:

[鶴見歴史の会が語る鶴見の歴史](#)

[鶴見歴史の会ホームページ](#)



参考いただいた資料だけでも、こんなにあります。

